

## 第6学年西組 社会科学習指導案

### 「日本国憲法に基づく自分たちの生活」

学習指導者 滝井 康隆

#### 1 学級（34名）の実態

##### （1）働きかけを行う自己調整力に関する実態

###### 〔諦めずに取り組む力〕

アンケート調査によると、社会科の時間に目標を達成するためには、大変なことでも挑戦していると回答した子供は31名、失敗しても途中で投げ出さず何度も取り組んでいると回答した子供は30名である。実際の授業中は、自分から積極的に教科書や資料集で調べたり考えたりする子供が見られるものの、分からないと感じたときに自分で調べるのをやめてしまい、友達の発表を待ったり教師の説明を聞いたりするだけになってしまう子供が見られる。

##### （2）教科に関する学級の実態

教科に関するアンケート調査によると、社会科の授業中に分からないことが出てきたとき、「自分で調べる」と回答した子供は17名、「自分から友達に聞く」と回答した子供は10名である。日本国憲法については、26名の子供が見聞きしたことがあると回答したが、内容までは詳しく知らず、憲法と自分たちの生活との関係を説明できる子供は少ない。

#### 本単元で習得させたい「諦めずに取り組む方法」

既習事項を手掛かりにしたり、友達の考えを参考にしたりする

#### 2 本単元で目指す『多様な他者と共に、自ら学びを進める子供』の姿

本単元では、新型インフルエンザ等対策特別措置法を取り上げ、感染症対策と日本国憲法の関係を考え話し合うことを通して、憲法に基づく我が国の民主政治の在り方について自分なりの考えをもてるようにしていく。新型コロナウイルス感染症に対する、休校措置や外出自粛の呼びかけ、店の営業時間の制限といった対策が、国会で制定された特措法などに基づいて行われていたことや国会の立法権が憲法によって定められていることを知った子供たちは、憲法の内容や政治の仕組みに興味をもち、憲法と自分たちの生活との関係を捉えようとしていく。憲法が自分たちの権利や政治の在り方を定めていることを理解した子供たちは、憲法の意義を捉えていこう。その中で、裁判所の働きを調べ、憲法に違反する法律が作られてしまう可能性があること、感染症対策の一つである飲食店の営業時間短縮要請及び営業停止命令に対して裁判が起こされたことを知った子供たちは、感染症対策としての時短営業命令が憲法に違反するかどうか自分なりの考えをもとうとする。そこで、既習事項を手掛かりにしたり友達の考えを参考にしたりしながら、様々な視点から感染症対策について考えていくことで憲法と自分たちの生活との関係を捉えていく。例えば、「店の営業時間を短縮することは、経済の自由に違反するのではないかな」「確かに憲法には財産権を侵してはならないとも書いているね。でも、営業時間短縮は、感染症から国民を守るために必要だったよ。生存権を保障していると言えると思うな」「憲法にも公共の福祉に反しない限り、と書かれているよね。今回の対策は、憲法に基づいていると言えるのだね」などと友達と交流していくのである。

このような学習を通して、民主政治の在り方と憲法の関係について考え議論していくことの大切さを感じた子供たちは、今後の生活においても憲法を意識しながら、現代的諸課題に対していかに対処していくべきか、よりよい考えを模索し続けようとしていこう。

### 3 単元構成の工夫

#### (1) 【「魅力的な単元の目標」を子供たちと共有する場の設定】①②③

子供たちの身近な生活を変えた新型コロナウイルス感染症対策を取り上げ、その対策の基となった法律の成立過程を学ぶことで、憲法や政治の仕組みに対する子供たちの興味を高め、民主政治の在り方について学ぶ価値を見いだせるようにする。

#### (2) 【「取り組む方法を選択して、自分で学びを進める時間」の設定】③～⑧

教科書や資料集、「あたらしい憲法のはなし」などを使って、憲法が定める国民の権利と義務や天皇の役割、内閣や裁判所の働きについて自分なりに調べてまとめる時間を設定する。まず、憲法について知りたいことを話し合い、調べる計画を立てる。実際に調べていく際には、取り組む順番やまとめ方を選べるようにし、自分なりにまとめるのが難しい子供にはワークシートを用意しておく。教師は、授業中や授業後に子供が困っていることにアドバイスをしたり、できていることを認めたりするなど、個人のペースに合わせて学びを進めることができるよう支援する。

### 4 単元計画と働きかけ (10/11)

次	学習の流れ	働きかけ
一	<p>① <b>新型コロナウイルス感染症にどのような対策がなされたらう</b> 自分たちの生活を振り返り、様々な感染症対策がなされたが、それらは「新型インフルエンザ等対策特別措置法」に基づいていたことを知る。</p> <p>② <b>新型インフルエンザ等対策特別措置法はどうやってできたのだらう</b> 立法を担う国会で特措法が決められたことを知り、法律は憲法に基づくものであることを理解し、憲法の章立てを大まかに知る。</p> <p>③ <b>日本国憲法が目指すものは何だらう</b> 国の最高法規である憲法が、世界の平和と民主主義、国民の権利を守るために定められていることを知り、憲法に対する疑問を話し合い、次の5時間で憲法の内容を詳しく調べ、憲法に基づく政治が実現しているか考える計画を立てる。</p>	<p>【<b>学びのスクラップブック</b>】 ①～⑩ <b>認知</b>諦めずに課題解決に向かうためには、既習事項を手掛かりにすることや友達の考えを参考にするとよいことを指導し、いずれかの方法の選択を促す。行動場面では、既習事項のまとめ方を助言したり子供同士の話し合いを促したりする。</p>
二	<p>④～⑧ <b>日本国憲法ではどのようなことが定められているのだらう</b> 「国民の権利と義務にはどのようなものがあるか」「天皇はどのようなことをしているか」「平和を守るために定めていることは何か」「内閣にはどのような役割があるか」「裁判所にはどのような役割があるか」といった課題について、自分で取り組む順番を決めながら解決していく。その際、まとめ方や資料を選択し、興味のある内容をより深く学べるようにする。その中で、憲法が国民の基本的な権利や義務、天皇の役割、国民が政治の在り方を決めていること、軍隊をもたないこと、内閣は行政を担い、裁判所は司法を担っていることを定めていることを理解する。</p> <p>⑨ <b>日本国憲法が目指す政治は実現しているだらうか</b> 憲法の内容をまとめ、三権分立の仕組みについて理解し、過去の違憲判決などについて知り、感染症対策に対する自分なりの考えを表現する。</p>	<p><b>想起</b>⑨～⑩時間目にはスクラップブックを見返しながら考えたり、友達の考えを参考にしながら考えを深めたりすることを想起させ、憲法と自分たちの生活との関係について自分の考えを表現できるようにする。 <b>実感</b>既習事項を振り返りやすくするために学習支援アプリを用いる。一覧性を高めつつ、資料の記録や分類をしやすくする。また、互いの気付きや考えを共有できるようにし、友達と話し合いやすくする。</p>
三	<p>⑩ <b>時短営業命令は、憲法に違反しているだらうか</b> 店の営業時間短縮命令と憲法の関係について話し合い、感染症対策と基本的人権の関係について考え、憲法を基に議論することの大切さを捉える。</p> <p>⑪ <b>日本国憲法は自分たちの生活にどのように関わっているだらう</b> 既習事項を基に、憲法と自分たちの生活について考えたことをレポートに表現し、互いに交流することで考えを広げたり確かなものにしたりする。</p>	<p>既習事項を使って説明している姿や友達と協働している姿を価値付ける。</p>

5 本時の学習

目 標	コロナ禍で行われた感染症対策が憲法に基づくものであったか話し合う活動を通して、憲法が自分たちの権利を保障していることを理解し、よりよい民主政治を目指した議論の大切さを捉えることができる。
--------	---

学習活動と働きかけ		主な子供の意識	
見 通 し	1 学習課題を確認する。	<p>日本の政治は、国会と内閣と裁判所が仕事を分担し、互いにチェックしている。国会が制定した法律に対して、裁判所が憲法に違反していると判決を下して、法律がなくなったこともあったよ。</p> <p>コロナ禍で行われた、店の営業時間短縮に対して、憲法に違反しているのではないかという訴えがあるよ。みんなはどう考えたのか話し合いたいな。</p>	
	<b>時短営業命令は、憲法に違反しているだろうか</b>		
行 動	2 根拠を明確にしながら互いの考えを話し合う。 【学びのスクラップブック】 (1) 班で (2) 班以外で (3) 全体で	同じ班の人はどう考えているのかな。	
		憲法に違反すると思うよ。第27条に「すべての国民には、働く権利がある」と書かれていて、時短営業命令は、この権利に違反すると思うからだよ。	憲法に違反しないと思うよ。権利は「みんなの邪魔にならない」時に守られることで、営業することが感染を広げるといって「みんなの邪魔」につながってしまうよ。
		確かに、みんなの邪魔にならないことは大切だね。	働く権利に違反するかもしれないね。でも今回はしかたがないよ。
		ほかの人たちはどう考えたのかな。	
		違反しないという意見を聞いて、考えが変わってきたよ。22条や23条に書いていることは、優先されるべきだね。	違反するという考えにも納得したよ。働く権利や財産を取らないことは、守られるべきだと思ったよ。
振 り 返 り	3 自分なりの結論を出し、議論の大切さを捉える。 【学びのスクラップブック】	実際の社会では、憲法に違反するとまでは考えられていないのだね。それでも、憲法に違反すると考えている人もいるのだね。	
		憲法に違反すると思っていたけど、今回は感染症を広げないためにも時短営業はしかたないという考えにも納得したよ。	憲法に違反しないと思っていたけど、働く権利や財産は守られるべきだという考えは当然だし、大切にしなければいけないと思うよ。
		現実の社会でもいろいろな意見が出されているのだね。こうやって議論することが、民主政治の社会をよくすることにつながるのだね。	
		友達と話し合うことで、それぞれの方が大切だと感じる条文が違うことに気付けたよ。ほかの条文も詳しく読んでみたいな。	いろいろな意見を聞いたり、自分の考えを伝えたりすることが、よりよい社会をつくることにつながるのだね。

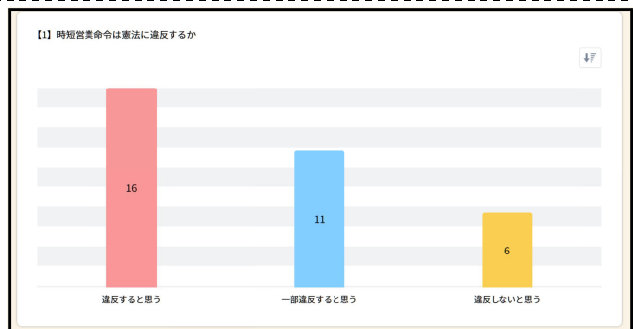
評 価	他者と議論することの大切さを感じるとともに、憲法の条文に書かれている権利について理解したことを基に感染症対策が憲法に違反するか考えたことを説明し、友達の考えを参考にして多角的に考えたことを表現している。 <span style="float: right;">【方法：発言・様相・記述】</span>
--------	---

## 6 本時の詳細

### ～見通し～ 学習活動 1

前時には、憲法が定める三権分立の政治の仕組みと、過去の違憲判決について学習している。また、感染症対策として行われた店の営業時間短縮命令に対して、違法であるという訴えがあったことを知らせ、時短営業や休業要請が憲法に違反するかどうかについて、既習事項を使って自分なりの考えを表現する時間を設定している。

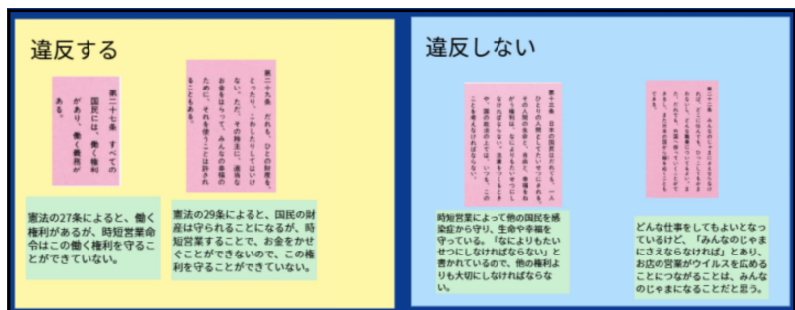
本時では、前時の振り返りを行い、飲食店に対する時短営業命令は憲法に違反しているかについて考えを深めるために話し合うという目的を確認し、学習支援アプリのアンケート機能を使って「時短営業命令は憲法に違反するか」について現時点での考えを表出させ、全体の考えを一覧にして表示し、話し合いへの意欲を高める。



【アンケートに答え、自分の考えを表す】

### ～行動～ 学習活動 2・3

全員が必ず他者と協働する機会を確保するために、まず班で互いの考えを根拠とともに話し合う。その際、これまでの学習を通して学んだことや自らの気づきを記録したカード、関係する条文を資料として見せ合うよう助言することで、子供たちは根拠を明確にしな



【自分の考えを、根拠とともに示す】

がら互いの考えを共有すると考えられる【学びのスクラップブック】。同じような考えの子供同士の話し合いでは、互いの意見や資料を共有し合い、考えがより確かなものになっていくだろう。違う考えの子供同士の話し合いでは、資料を基に相手がどのような考えであるのかを聞き合い、相手の意見に納得して自分の考えを変えたり、根拠を示して自分の考えを伝えることで相手の共感を得たりしていく。班での話し合いを終えた後は、アンケートを基に自分の考えとの異同に着目しながら考えを聞きに行く。子供たちは、自分と違う意見の子供に話を聞きに行くことで新しい考えに触れようとしたり、自分と同じ意見の子供に話を聞きに行くことで根拠となる資料を集めたりしていくだろう。【学びのスクラップブック】

その後、「憲法に違反する」「憲法に違反しない」のそれぞれの考えについて全体交流する時間を設ける。その際、根拠となる資料をテレビモニターや子供の端末に表示することで、そう考える理由を分かりやすくする。

全体交流後、実社会における司法判断を紹介し、議論が続いていることを知らせる。その後友達  
の考えなども参考に改めて自分なりの結論を出す【学びのスクラップブック】。いずれの立場の考えも肯定し、どの意見も大切であることを伝える。今回のような議論を続けていくことが、社会をよりよくしていく民主政治の実現につながることを伝え、自分の考えをもち議論していくことの大切さを捉えることができるようにする。

### ～振り返り～ 学習活動 4

本時の話し合いを通して学んだことをノートに記述し、全体で確認した後、学習支援アプリを使って振り返りを記録する。子供たちはアプリ上で互いの振り返りの記述を共有することができるため、お互いに参考にしながら記述することができる。振り返りを全体交流する際には、本時新しく気付いたことに関する感想や次の学びへの意欲に関する記述を取り上げることで、子供たちが次に学ぶことを見いだせるようにする。